

特別史跡加曾利貝塚新博物館 展示ケース共通要求水準

項目	種別	要求水準
気密性能	共通	<ul style="list-style-type: none"> ・エアタイト型を基本とする。常設展示室は、想定される展示資料に応じて、ノンエアタイトとする。 ・空気交換率は0.3回／1日程度とする。 ・ケース内部からの有害物質の放散を抑えるとともにケース外部からの有害物質の侵入がない構造とすること。 ・展示ケース内の空気清浄度は、ホルムアルデヒド80ppb以下（0.08ppm）、有機酸（酢酸）170ppb以下、アンモニア30ppb以下とする。（東京文化財研究所『美術館博物館のための空気清浄化の手引き』平成31年3月 記載の「望ましい値」を満たすこと）
	企画展示室	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に収蔵庫の環境に準ずるものとする。 ・壁面ケース内温湿度は外気や展示室の環境による急激な変化がなく、資料保存の観点から適切な温湿度となること。 ・カセットタイプの調湿剤が設置可能なこと。 ・無線式温湿度データロガーによる常時モニタリングを可能とすること。
ガラス	共通	<ul style="list-style-type: none"> ・高透過ガラス相当とし、展示資料の良好な観覧環境に配慮すること。 ・資料の観覧に支障が無いよう、低反射ガラスの使用やフィルム貼りなど、反射低減の措置をとること。 ・飛散防止措置を講ずること。
	壁面ケース	<ul style="list-style-type: none"> ・厚さはt=12mmを基本とする。
	独立ケース	<ul style="list-style-type: none"> ・厚さはt=10mmを基本とする。
仕上げ外装	共通	<ul style="list-style-type: none"> ・展示ケースの意匠は揃えること。 ・展示室内の意匠と統一感のあるものとする。
仕上げ内装	共通	<ul style="list-style-type: none"> ・不透湿下地板＋シーズニング合板又は無機質系中性調湿板＋平織布クロス 汚染物質低放出（博物館・美術館専用）を用いること ・耐荷重70kg以上のピクチャレールを設ける
背面可動パネル	常設展示室 壁面ケース	<ul style="list-style-type: none"> ・展示替えが想定される個所に、必要に応じて背面可動パネルを設ける。
	企画展示室 壁面ケース	<ul style="list-style-type: none"> ・壁面ケースには背面可動パネルを設ける。 ・上下固定式を基本とし、位置の固定機能を有すること。 ・位置調整、固定作業がスムーズに行えるよう配慮すること。

項目	種別	要求水準
照明	壁面ケース共通	<ul style="list-style-type: none"> ・上部ライン照明はLEDライト2列以上とし、列ごとに調光・調色が可能なものとする。また、スポットライト用のライティングレールを配置する。照明の前面に熱切ガラスを設けること。 ・上部ライン照明はケース外部から安全に照明作業がおこなえる構造とすること。 ・下部照明はLEDライトとし、調光・調色が可能なものとする。また、マイクロスポット照明を取り付けるライティングレールを配置する。 ・スポットライトは、スポットライト本体から個別調光を行なえるものとする。 ・床面の照度200lx以上を確保できる性能とする。また照度150lx以下での安定した照度環境を実現し、展示面において均斉度を中心部より有効展示範囲（監督職員と協議の上決定）で0.7以上を確保すること。 ・上部ライン照明の調光は0%～100%の範囲で各列独立してシームレスな調光が可能であること。 ・上部ライン照明の調色は2,700K以下～5,000K以上の範囲で各列独立して無段階の調色が可能であること。 ・文化庁 「国宝・重要文化財に関する取扱要項」に則した取り扱いが可能であること。 ・照明演色性は平均演色評価数Ra95以上を確保すること。
	独立ケース共通	<ul style="list-style-type: none"> ・調光・調色可能なLEDライトを備えること。 ・調光は0%～100%の範囲で各列独立してシームレスな調光が可能であること。 ・調光は2,700K以下～5,000K以上の範囲で各列独立して無段階の調色が可能であること。 ・照明演色性は平均演色評価数Ra95以上を確保すること。
扉・開閉機構	壁面ケース共通	<ul style="list-style-type: none"> ・フラット扉方式とする。 ・フロントガラスが内側に開き、横方向に移動できるものとし、全面開口可能であることを基本とする。 ・展示作業を行う担当者が安全かつストレスなく作業できるよう配慮した構造とすること。
	独立ケース共通	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス面全体の可動など、資料の鑑賞を妨げず、かつ展示作業を行う担当者が安全かつストレスなく作業できるよう配慮した構造とすること。 ・少なくとも1面が全面開口することを基本とする。
免震性能	共通	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース内の必要な個所に置き式の免震台を設置するものとする。
一般事項	共通	<ul style="list-style-type: none"> ・使用する主要部品、部材は日本工業規格（JIS）又は国際標準化機構（ISO）に準拠すること。 ・展示ケース一式はJIS表示認定、ISO9001又はISO14001認定、又は同等の規格認定を受けた工場又は会社で管理して製作、設置を行うこと。
実績	共通	<ul style="list-style-type: none"> ・過去5年間に重要文化財を有する博物館・美術館施設へ同等品エアタイト展示ケースの納品実績を有すること。
保守	共通	<ul style="list-style-type: none"> ・修理対応拠点は日本国内にあり、不具合が生じた場合は速やかに対応すること。
提出書類	共通	<ul style="list-style-type: none"> ・納入業者の実績を証明する書類 ・展示ケース内空気環境調査結果 ・温湿度測定結果